



池田 誠

IKEDA Makoto

日本通運執行役員関西ブロック地域総括兼
大阪支店長

“グローバル”関西 物流から見えるもの



近年、グローバル化の波によって国境を越えたビジネスが盛んになる一方で、国内市場だけで事業展開をされている企業も多数存在しています。こうしたなか、われわれ物流業者はお客さまのグローバルなニーズにもローカルなニーズにも対応していく必要があります。そこで導き出したのが“グローバル”の視点です。グローバルとは本来、国境を越えた地球規模の視点と草の根の地域の視点両方でさまざまな問題を包括的に捉えようとする考え方です。しかし、われわれは“グローバル (GLOCAL)”を、G=GLOBAL、L=LAND、OC=OCEAN、A=AIR、L=LOGISTICSとして、陸海空の物流をローカルからグローバルまでを総合的に提供する一連の事業を表す言葉と捉え直しています。当社では、「グローバル関西」をキーワードとして具体的に3つの施策に取り組んでいます。

一つ目は、アカウントマネジメント体制と情報システムの構築です。従来は陸海空の物流業者、倉庫業者がそれぞれお客さまのロジスティクスを設計していました。しかし、これからはお客さまに対して一つの物流業者がすべてのサービスを提供するような、アカウントマネジメント体制の確立が求められます。当社もお客さまのサプライチェーンを俯瞰し、ご要望にワンストップで応えられる体制を整えていきます。また、物流を通じて集まる情報をビッグデータとして蓄積し、AIやIoTなどをうまく活用して自動化や最適化をはかれば、お客さまの競争力の強化につながるのではないかと思います。

二つ目は、各企業のグローバル人材をサポートするサービスの充実です。国内市場のみで活動していた企業が海外展開の必要性に迫られると、さまざまな課題が生じます。このような場合に、海外赴任者への説明会やビザの取得、

健康診断、語学学校の紹介、さらには引越しと、われわれ物流業者がいろいろな面でお手伝いできればと考えています。海外進出に躊躇されている関西の企業があれば、ぜひサポートさせていただければと思います。

三つ目は、ローカルにおける変化への対応です。近年、eコマースの発展によって、当社も含め物流業者が大阪を中心に大型物流拠点を次々と建設しています。また、経済のスピード感が増していくなか、荷物を少しでも早く届けるために、より消費者に近いローカルな地に小規模な物流施設も設けられています。このような動きは消費者の利便性向上はもとより、地域の雇用創出にもつながります。関西でも大阪・京都・神戸の三大都市だけではなく従来考えていなかったエリアに物流施設を設けることで、いろいろなチャンスがあるとみています。

物流の視点で関西を見てみると、優れた技術を持つ企業がたくさん存在している地域であることを実感します。最近では、これまで輸出していなかった品目の輸出を始めるなど、新たな分野に挑戦する企業もあります。また、外国人観光客の意欲的な購買が、一般消費財の物流量の増加にもつながっています。さらに、2025年の国際博覧会の大阪・関西での誘致が実現すれば、世界中からの荷物が関西に集まることになるでしょう。関西はまだまだ大きな潜在力を秘めていると思います。

当社では、物を運び、保管するだけではなく、国内市場で成長をめざす企業、海外に進出する企業、さらには関西に進出する外資系企業それぞれに対し総合的かつ柔軟なサポートを行うことで、関西の発展に寄与していきたいと考えています。

(談)